

令和3年度 石川県水産振興協議会 次第

令和3年11月9日(火)
10時30分～12時00分
県庁11階1110会議室

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 委員紹介
- 4 議題
 - (1) 漁業士の認定について（審議事項）
 - (2) 「いしかわの水産業振興ビジョン」の進捗状況について
 - (3) 主な水産トピックの紹介
 - (4) 水産総合センター研究概要について
 - (5) その他
- 5 閉会

令和3年度 石川県水産振興協議会 結果概要

(1) 漁業士の認定について（審議事項）

- ・事務局から 漁業士認定制度の概要、認定候補者 7名の略歴について説明するとともに、現在、石川県漁業士会会長である達委員から、日頃の漁業士の活動状況について紹介していただいた。

⇒いずれの候補者も漁業士として適当である旨の答申を決議。

(2) 「いしかわの水産業振興ビジョン」の進捗状況について

- ・平成29年度に策定した標記ビジョンについて、策定から5年目を迎えたことから、4つの目標ごとにと組の進捗状況及び今後の対策等を説明した。
- ・委員からの以下の意見を今後の施策に反映させ、引き続き本ビジョンを基本方針として水産施策を推進していくことので了承を得た。

(主な質疑・意見)

- ・わかしお塾の利用者の就職率は？

⇒累計で約800名の方から就業希望の相談があり、そのうち100名以上の方が就業されている。

- ・防災は非常に関心が高い分野だと思うが、蛸島漁港の工事の事業費は？

⇒3億～4億円程度。

- ・若い方が就業してくれるが、漁村には女性との出会いが少なく、そういった面のフォローもしてあげるなど、定着できる総合的な環境づくりが必要では。

- ・担い手の確保はすぐに効果の出るものではないので、地元の小学校などと連携し、船などを見せて関心を持ってもらうようにしている。

- ・能登とり貝の育成管理作業は大変だが、管理を怠ると出荷時の貝の大きさなど結果に響いてしまう。今年度は今のところ順調に育っている。

- ・ブランド化も素晴らしいが、コロナが収まってきて小売りで魚や肉が少し余りだした。もう少し地産地消の取り組みがあればと思う。

- ・漁業を生業とするには、閑散期にも収入が必要。そのためにイワガキを漁獲する前の春の閑散期にワカメの加工品づくりを始めた。作成した加工品は道の駅などで販売し、収入の確保につながっている。

- ・以前に魚礁を設置した場所でズワイガニが増えているように感じているが、数年前にズワイガニの資源が半減するという予測があったはず。現在の状況はどうか？

⇒漁業者の資源管理への理解もあり、国の資源調査では小型のカニが増えてきており今が底という予測もある。今我慢すれば将来良くなる可能性が見えてきた。

(3) 主な水産トピックの紹介

- ・加能ガニの更なる消費拡大や知名度向上を目的に、重さや大きさなどの規格を満たしたものを「輝（かがやき）」として認定し、県下統一の最高級品に位置付ける取組みが始まったことから、その取組内容と初競りの結果について紹介した。

(4) 水産総合センター研究概要について

- ・水産総合センターが研究しているスルメイカの資源について、海洋環境と資源動向の関係について説明した。

(主な質疑・意見)

- ・海水温がスルメイカ資源に与える影響について非常に分かりやすい説明だった。外国船の違法操業についても、さらなる対応をお願いしたい。

⇒国防や安全保障にも関わる話であるため、外国船の違法操業対策は国が行うこととなっているが、県としては、漁業者の状況や声を国にしっかりと伝えていきたい。

(5) その他

- ・七尾市内の講演会で、鉄と海藻や植物プランクトンの関係について紹介があった。魚や海藻が減っているという話もあり、魚やプランクトンが増えるように山や海で分けるのではなく広い視野で取り組んでいただきたい。